

「第1回 英語でニッポンを語ろう！コンテスト in 川越」結果報告

2016年9月2日「英語の通じる街」実行委員会



■実施概要：

日時：2016年4月16日（土）13:00～15:30

（※15:30～16:30 は会場を開放して、English Time）

場所：ウェスタ川越多目的ホール

後援：川越市、川越市教育委員会、小江戸川越観光協会、川越商工会議所、テレビ埼玉

協力：GOP（外国人おもてなしプロジェクト）、エスプリライン

審査員：Barry Duell 氏（小江戸川越観光親善大使、東京国際大学名誉教授）

Richard A. Moe 氏（駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部教授）

金子廣行氏（上智大学大学院博士課程修了・元大東文化大学講師）

大谷治子氏（株式会社エスプリライン専務取締役）

ご来賓：川越市長 川合善明氏

小江戸川越観光協会 会長 糸原恒久氏

川越商工会議所 専務理事 竹澤穰治氏

「英語の通じる街」実行委員会とは：

川越を英語と心の通じる街にすること、そしてその川越をモデルケースに、日本各地に英語の通じる街を増やしていくことを願い、2013年、川越市の経営者の有志を中心に結成された団体です。

■告知（ポスター、チラシ、説明等）：

- 川越市産業観光課より川越市公共施設（川越市、観光協会、ウエスタ川越含む、他 35 カ所）
- 川越市商工会議所、川越青年会議所、シルバー人材センター、協同組合川越バンテアン
- 川越市の校長会、川越市内の中学・高校・大学
- 川越商店街連合会、川越一番街商店街店舗
- 埼玉りそな川越市内店舗、埼玉縣信用金庫川越周辺 29 店舗、武蔵野銀行川越支店
- 日高屋川越市内 4 店舗、三光ホテル、YAOKO（市内 5 店舗）、日本アポック（市内 4 店舗）
- イーグルバス車内（小江戸巡回バス、日高路線、川越-羽田線）、東武鉄道川越駅
- 川越駅、川越市駅、本川越駅、霞ヶ関、南古谷周辺学習塾および英会話学校
- スピーチコンテスト用ホームページ開設

■出場者：

ジュニア部門（中学生～高校生）：6 組

一般部門（18 歳以上）：10 組

⇒32 組の応募から、映像の審査を経て 16 組が出場

- ・ 埼玉県内を中心に、東京都、千葉県、大阪府からも参加
- ・ ジュニア部門は中学 2 年生から、川越の星野高等学校 ESS、日本医療科学大学の英語観光ガイドを行っている学生等が参加
- ・ 一般部門は、埼玉県内の大学生、主婦、会社員等が参加

■来場者（観客数）：366 名（351 名予定に対して） ※未申込み・当日受付 70 名

■協賛： 51 社（株式会社協同商事様より、賞品としてコエドビールご提供）

■プログラム：

時間	内容
13：00 オープニング	ご来賓紹介：川越市長川合善明氏ご挨拶、審査員紹介、 「英語の通じる街」実行委員会：大谷登より挨拶
13：14 ジュニア部門発表	6 組（中学生～高校生）
13：42 一般部門発表	10 組（18 歳以上）
14：32 審査タイム	小江戸川越観光協会 桑原恒久氏よりご挨拶 iTunes ポッドキャストで人気の外国人 MJ（エムジェイ）とアダム によるショータイム
14：47 休憩	
15：02 表彰式	表彰、審査委員 Barry Duell 氏によるコメント
15：25 エンディング	コンテスト実行委員長：谷島賢より挨拶
15：30 終了	記念撮影、English Time

■アンケート：別紙参照

■メディア掲載

<事前> TV2件、新聞4件、WEB7件、情報紙2件（計15件）

日にち	媒体名	媒体	部数等
2/2(火)	テレビ埼玉 イブニングニュース&ネットニュース	TV・WEB	
2/11(木)	日経新聞 埼玉版	新聞	15万部
2/12(金)	東京新聞 地域の情報面&ネットニュース	新聞・WEB	52万部
2/12(金)	登竜門	WEB	
2/16(火)	公募ガイド	WEB	
2/17(水)	J:COM チャンネル デイリーニュース(夕方5:00~)	TV	
2/19(金)	ショッパー川越版	地域情報紙	11万部
2/22(月)	日経MJ	新聞	26万部
2/22(月)	日本教育新聞	新聞	24万部
2/26(金)	ショッパー所沢版	地域情報紙	12万5千部

<開催後> TV2件、新聞3件、WEB2件、情報紙1件（計8件）

日にち	媒体名	媒体	部数等
4/16(土)	テレビ埼玉 テレ玉ニュース&ネットニュース ⇒Yahoo!ニュースに転載	TV・WEB	
4/17(日)	読売新聞 埼玉版	新聞	100万部
4/19(火)	J:COM チャンネル デイリーニュース	TV	
4/21(金)	日本流通産業新聞	新聞	8万2千部
5/2(月)	東京新聞&ネットニュース	新聞・WEB	52万部
5/20(金)	ショッパー川越中央版	地域情報紙	10万5千部

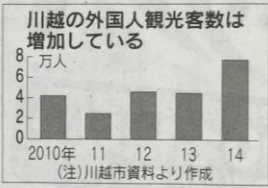
第2回コンテストは2017年6月10日(土)に開催決定(ウエスタ川越多目的ホール)!

埼玉県川越市の企業が英語の通じる街づくりに乗り出す。地元企業の経営者らでつくる実行委員会は4月、英語で日本の魅力を伝えるスピーチコンテストを開催する。蔵造りの町並みのある同市は訪日観光客が増加し、2020年東京五輪の競技開催地でもある。交通事業者や商店街が英語力を高める機運をつくり、商機を取り込む狙いだ。

中堅バス会社、イーグルバス（川越市）の谷島賢社長が委員長を務める「英語の通じる街」実行委員会は4月16日、「英語でニッポンを語ろう」コンテストin川越」を川越市内で開催する。原

「Welcome 川越」英語力磨く

地元企業が4月、スピーチ大会



東京五輪や観光に向け人材の発掘につなげる。川越市の14年の外国人観光客数は7万7000人と、13年比7割増加した。東京五輪では市内の観光客数は増加している。同委員会はイーグルバスがゴルフ競技の会場となり、20年に向けて訪日外国人が増えることが想定される。イーグルバスの谷島社長は「言葉のバリアフリーを進める

訪日客もてなし 言葉から

ここで事業者にも商業的なメリットがある」と強調する。川越では英語対応を進める動きが活発だ。エスプリラインは13年、川越の商店街向けに道案内や歴史を説明する教材を無償で配布。不定期に英語話者が店を訪れ、習熟度合いをチェックするなど、活動に取り組んだ。イーグルバスは川越の観光名所を巡るバス運転手が英語である程度対応できるようにした。埼玉県乗用自動車協会は川越で観光ガイドタクシーを導入。タクシー事業者に英語教材を配布し、英語での観光案内に取り組んでいる。

↓2016年2月12日（金）東京新聞（埼玉版）

2016年(平成28年)2月12日(金曜日) 埼玉中央

日本の魅力 外国人にPR

2020年東京五輪に向けて、「小江戸・川越を英語の通じる街にしよう」と、川越市の企業役員らでつくる「英語の通じる街」実行委員会（会長・谷島賢イーグルバス社長）が4月16日、同市内で「英語でニッポンを語ろう！コンテストin川越」を開く。漫才やショートコントでの参加もできるユニークな英語コンテスト。外国人に日本のよさを伝え、観光ボランティアやおもてなしのできる人材を発掘し、育てるのが目的という。（中里実）

川越で4月 英語コンテスト開催

コンテストのテーマは「世界に伝えたい！日本の素晴らしさ・日本の魅力」で、シニア部門（中高生と一般部）を設け、発表形式はスピーチ、プレゼンテーション、漫才、ショートコント、寸劇など、三分以上五分以内の時間で競う。審査ポイントはメッセージ性と表現力、「日本のよさを魅力を伝えよう」というか、伝えるための具体的な表現をしているかという。「教科書の正確性あり、コミュニケーション能力を重視する」とい

シニア部門（中学・高校生と一般部（十八歳以上））があり、①英語が母国語ではない②海外に通常一年以上滞在している③漫才やショートコントの経験がある。グループでの参加も可能。川越市は蔵造りの町並みで知られる「小江戸」、菓子屋揃いなど、20の観光名所あり、東京五輪に向けた「おもてなし」外国人観光客の増加を促す。市は「英語の通じる街」実行委員会を立ち上げ、100名以上の人材を募集し、16日（土）に川越市市民会館でコンテストを開催する。実行委員会の谷島会長は「川越を一番街の商店主たちは、すでに増え続ける外国人観光客に対して、浅学のような国際観光都市に特化した教材を提供している」という。

実行委員の谷島会長は「川越を英語の通じる街にしよう」という。ボランティアの育成を目的とし、川越市に本社会の外国人語教材社・エス、広げるの目的」と話している。P.6

東京五輪向け 国際観光都市目指す

実行委員会は、2020年東京五輪に向け、国際観光都市を目指す。市は「おもてなし」外国人観光客の増加を促す。市は「英語の通じる街」実行委員会を立ち上げ、100名以上の人材を募集し、16日（土）に川越市市民会館でコンテストを開催する。実行委員会の谷島会長は「川越を一番街の商店主たちは、すでに増え続ける外国人観光客に対して、浅学のような国際観光都市に特化した教材を提供している」という。

コンテストは四月十六日午後一時から、ウエスタ川越市のホールで、応募は三月十日までに、発表内容は事務局に郵送する。本選は十五日前後が会場。優秀賞（十万円）、部門賞（五万円）などを送る。問い合わせ先は「英語の通じる街」実行委員会。P.7

↑2016年2月11日（木）
日経新聞（埼玉版）

英語で日本を語る 川越でコンテスト

日本の様々な魅力を英語で伝えるスピーチコンテスト「英語でニッポンを語ろう」コンテストin川越」が16日、川越市新宿町の「ウエスタ川越」で行われた。

県内在住者を中心に、自身のスピーチ映像による審査を通じたジュニア部門（中学2年〜高校3年）6人、一般部門（18歳以上）10人が参加した。

参加者らは3〜5分の制限時間で、日本の若者文化や食文化、川越の歴史的な魅力などを、約400人の聴衆を前にはきはきと表現。新商品を発表する時の巧みなスピーチで知られた米アップルの創業者・ステイブ・ジョブズ氏のように、歩きながら大きな身ぶり手ぶりで話す人もおり、聴衆を沸かせていた。

審査の結果、最優秀賞に一般部門の石橋千穂さん（ふじみ野市）、優秀賞に同部門の川崎貴彦さん（東京都杉並区）とジュニア部門の熊取りり花さん（所沢市）がそれぞれ選ばれた。

USO放送

パナマ文書
パナマ文書の間違いで
は？
一読者
（中央区・アントニオ）

交通公開取り締まり（17日）
▽昼＝無免許・速度・シートベルト
▽朝＝春日部、狭山、高岡、川越、浦和、大宮、東武東上線

↓2016年4月17日（日）読売新聞（埼玉版）

ニッポンのよさ 英語で伝えよう

川越でコンテスト

外国人に日本のよさを英語で伝える能力を競う「英語でニッポンを語ろう」コンテストin川越」が川越市のウエスタ川越多目的ホールで開催され、予選を通過した十六組が趣向を凝らしたパフォーマンスを披露した。

川越市は外国人観光客が右肩上がり増加している。コンテストは同市の企業役員らでつくる「英語の通じる街」実行委員会（谷島賢委員長）が「観光ボランティアやおもてなしのできる人材を育てよう」と初めて企画した。

本選には県内のほか、東京都、大阪府、千葉県などから参加。審査の結果、最優秀賞に「川越の怪談」子育て幽霊」を演じた石橋千穂さん（一般部門・ふじみ野市）が選ばれた。

◆熊谷直実（ななおさね）展 IIと熊谷の昔展 19日〜24日 城経済研究所 経営情報事業部 鈴木さん ☎048（6）0900（3548）298 7（午後5時〜同9時）。

その他の入賞者は次の皆さん。
優秀賞 熊取りり花（ジュニア部門）、川崎貴彦（一般部門）▽おもいが伝わった賞 中家順子（同）▽個性があふれていた賞 野沢万智（同）

趣向を凝らしたスピーチで入賞した人たち（前列）＝川越市で（主催者提供）

←2016年5月2日（日）東京新聞（埼玉版）

↓2016年5月20日（金）ショッパー（川越中央版）

英語で日本の魅力を発表 怪談がテーマの 出場者が最優秀賞

「英語の通じる街」実行委員会主催「英語でニッポンを語ろう」コンテストin川越」が4月16日、実行委員長（谷島賢）が発表。

怪談で母親の愛を情感豊かに伝えた県内在住の石橋千穂さん。「怖さだけでなく日本人の優しさなど、文化としての怪談を発信したいと、何回も練習したので嬉しいです」と石橋さん（写真中央）。

同会では「英語を話す市民が増えることで国際観光都市・川越の一步に」と今後も英語で外国人との絆を深める街づくりを目指します。

問い合わせは企画・運営事務局（☎080・4165・7432）へ。

川越市と女子栄養大学が連携・協力 食と健康のまちづくり

川越市と女子栄養大学との連携・協力に関する包括協定を4月27日、女子栄養大学坂戸キャンパス（坂戸市千代田3の9の21）で交わしました。「実践栄養学」を理念